

第1回検証会議へのメモ

委員 佐藤 健 宗

調査の対象について、これまで新聞報道などでは余り議論されていなかった点や個人的に気になっている点がありますので、以下に列挙いたします。

記

① 事前の災害情報・対策について

- ・津波の浸水予測の作成経緯
- ・釜谷地区の過去の津波浸水被害（大川小学校は明治初期に創立・約300年前に創建されたと思われる観音寺に津波の記録はないか）
- ・緊急時の学校のマニュアル「高台に避難する」の作成経緯と学校内部での議論
- ・津波警報の際、裏山に登って逃げるという考え方は全くなかったのか

② 学校内の体制について

- ・当日は校長不在 学校教育法37条で公務を司るのは教頭（リーダーシップ）
- ・校長、教頭以下の教員の日常的なチームとしての在り方（コミュニケーション）
※参考：日常的な学校内の人間関係、当日の情報共有や分析、意思決定のあり方、避難行動のあり方の事実整理、分析及び教訓化にCRMの発想が有効ではないか

CRMとは、「安全で効率の高い運行を行うために、操縦室における資源(リソース)、すなわち情報や装備、人間などの使用できる全てのリソースを利用すること」

その考え方の有効性が認められ、TRM(Team Resource Management)として、単に飛行機の操縦室やクルーだけでなく、安全にかかわる多くの分野のチームに応用されるようになった。

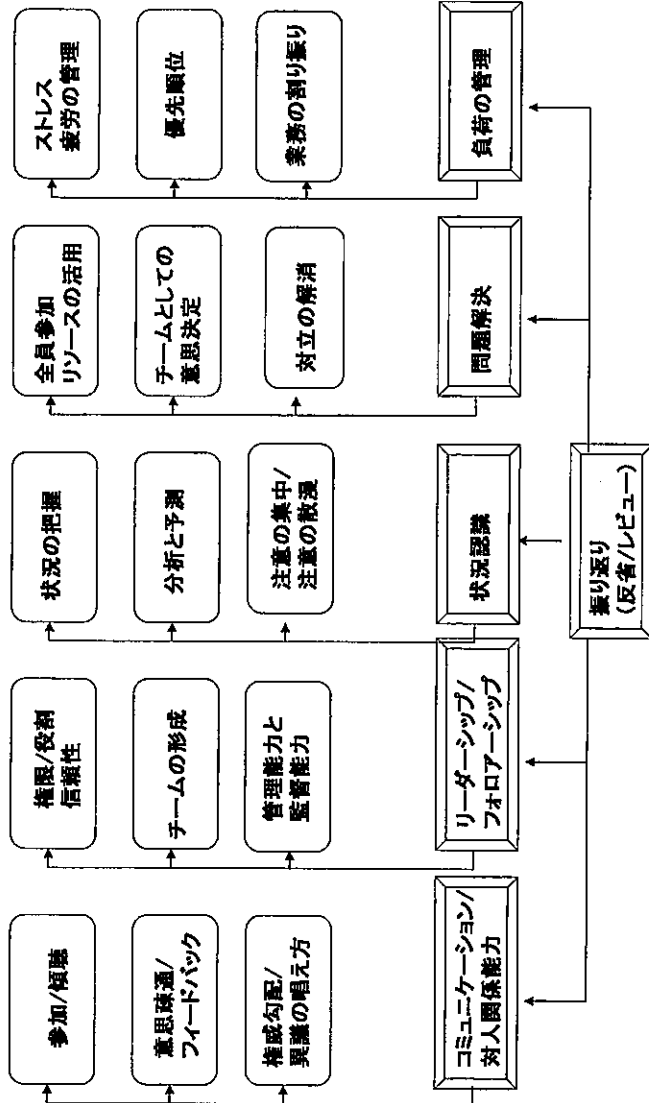
現在のCRMは、「CRMスキル」と呼ばれるエレメントで構成される(別紙参照)。

③ 津波被害の正確な把握

- ・津波はどちらの方向から小学校に押し寄せたか
- ・津波の正確な高さ（小学校・三角地帯・裏山各ポイントで）

④ 当日の避難行動

CRM スキル/エレメント



CRM スキル